

回数	日程	テーマ・議論概要
第1回	2020年3月13日	<p>初回のテーマとして、「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」を検討するにあたり、2040年を見据えて今後新たに取り入れていくべきまちづくりの視点など、論点を整理しました。</p> <p>議論を通して、年齢構成が偏った住宅地を持続可能な魅力ある「まち」に変えていくこと、暮らしに関わる新技術や次世代の価値観による暮らしを謳歌するために都市として備えるべきこと、公園の多機能化・多世代化や管理の効率化といったことなど多岐に渡る論点を確認しました。</p> <p>また、今後の進め方として、市域全体を4つのエリアに分類し、各エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論していくことを確認しました。</p>
第2回	2020年5月21日	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する1回目として、駅前拠点周辺や大規模団地などでの暮らしをイメージして、学識の先生方から話題提供を頂きました。</p> <p>「ターミナル駅・モノレール新駅周辺のくらしをイメージした基盤整備の方向性」 「エコディストリクト(既存市街地において参加型でエコなまちをつかっていくコンセプトと枠組み)/駅そば生活圏」 「拠点地域・利便性が高い地域での「ビジョン」「プラン」の重要性と課題」 「みどりとオープンスペースの戦略」 「イギリスの健康都市づくりについて」 「拠点整備のあり方について」 など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、 「道路的な空間の役割が20年後には大きく変わってきて、使い方や断面構成が変わるのではないか」 「緑地やオープンスペースについても、使い方が日常化してくるのではないか」 「空間と目的の関係が、出歩きたくなるまちを考えるうえで大事になるのではないか」 「さらに20年間で働き方の変化は加速するのではないか」 「都市農地のあり方と「食」のあり方を併せて考えると良いのではないか」 などのご提案を頂きました。</p>
第3回	2020年7月10日	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する2回目として、ゆとりある郊外住宅地などでの暮らしをイメージして、委員の方々から話題提供を頂きました。</p> <p>「ウィズコロナ・アフターコロナにおける新しい郊外像」 「町田市の旗竿敷地から見る住環境」 「都市防災分野からの話題提供」 「住宅地と生業の場の関係再構築の要件」 「地域コミュニティの活性化に向けた学校法人との連携協力協定について」 「郊外住宅地の暮らしを支える移動型サービスとコミュニティ・プレイス」 「これからの郊外像と移動の体系」 など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、 「基本構想(案)でまちづくりの方向性に示されている「ちょっといい環境」「ちょっといい暮らし」という言葉は、都市づくり分野でも具体化していくことが必要」 「テレワークなどコロナで急速に生活様式が変化しているが、今後どうなっていくか注視して暮らしのイメージを設定すべき」 「職住融合など住宅が多機能化すると、自宅に閉じこもりがち印象を受けるが、家の中だけでなくまちの暮らしを豊かにして利用していくという考え方をすべき」 「人と会ってコミュニケーションが出来るというのが人間社会の基本であり、その手段として交通施策が大切」 「近未来的なトリップの減少やコロナ禍による公共交通の維持困難をどのように整理していくかが課題」 などのご提案を頂きました。</p>
第4回	2020年9月18日	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する3回目として、市街化調整区域及びその周辺を中心としたみどり豊かな地域などでの暮らしをイメージして、委員の方々から話題提供を頂きました。</p> <p>「町田市民の生活を豊かにする緑の活用案」 「藤巻さと構想と地域まちづくり(参考事例)」 「自然環境の多主体による共同利活用のハードル」 「近郊里山の保全と利用」 など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、 「二拠点居住のような新しいライフスタイルの里山関係人口増加という視点もあると良い」 「町田市街地に住んでいる人がここにアプローチしようとする時、自家用車やモノレールも手段としてあるが、小さな交通でのアプローチも考えた方がいい」 「地権者やそこに住んでいる人のメリットも考えて計画を作る必要がある」 「何かを実現しようと思えば、何らかの開発行為は伴ってくるので、規制の柔軟な運用が求められる」 「里山部は貴重な資源であり、学校や地域の連携に使えることが理想ではないか」 などのご提案を頂きました。</p> <p>また、5回委員会の間中まともに向けて、市全体の暮らしのイメージや資料のまとめ方についてもご意見を頂きました。</p>
第5回	2020年10月9日	<p>第1回～第4回までの議論を振り返り、不足する点などを補って、中間とりまとめとして整理を行いました。2040年の暮らしのイメージについては、 「エリア類型を4つに分けているが、相互に繋がって行ったり来たりできるエリア間の重なりを含めて表現できると良い」 「町田市は鶴見川や境川の源流を抱えており、水の持つ価値は大きいので、「水」というキーワードを入れた方がいい」 「市街化されていない丘陵地やその周辺エリアでの暮らしについて、地権者や農業者から見た暮らし方の記述もあった方がよい」 などのご意見を頂きました。</p> <p>また、今後の検討の方向性については、 「全体ビジョン編では、将来の都市構造の変化を見せながら各分野が融合した統合的な方針を書き、個別パート編では、それを実現するために各法律に従ってできることを具体的に書いていくという整理の仕方が良いのではないか」 「地区別パート編については、市民の主体性をもとにやっていくことは良いが、行政が活動を支援していくことも必要ではないか。」 などのご意見を頂きました。</p> <p>また、報告事項として東京都が策定する「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(原案)」の概要および、同時策定中の市の計画(基本計画、福祉分野、環境分野)との関係性について事務局より報告しました。</p>